

不登校児童生徒への対応事例7（中学校第2学年女子）

～学校と家庭、スクールカウンセラーの連携・協力～

問題の把握

当該生徒は、11月から半年間、学級内での友人関係が問題となり、不登校状態にあった。保護者との面接から、学級内での人間関係からくる心的な緊張感が主な原因であると判明した。

そこで、不登校の再発や他にも不登校の可能性のある生徒がいたことから、全校で支援する体制を整備するとともに、スクールカウンセラーと連携し、人間関係の改善も含めて担任への支援を開始した。

対応状況

[別室登校]

別室登校へのプログラムでは、学校全体で配慮することになっているため、スクールカウンセラーは、ゆとりをもってアセスメントと情報の確認や担任への支援を行うことができた。

前年～5月

[アセスメントの結果の共有]

学校は、家庭訪問や電話連絡により当該生徒の状況を把握し、教育相談を継続的に行うとともに、保護者了承のもと、スクールカウンセラーによる当該生徒のカウンセリングを実施した。

6月～10月

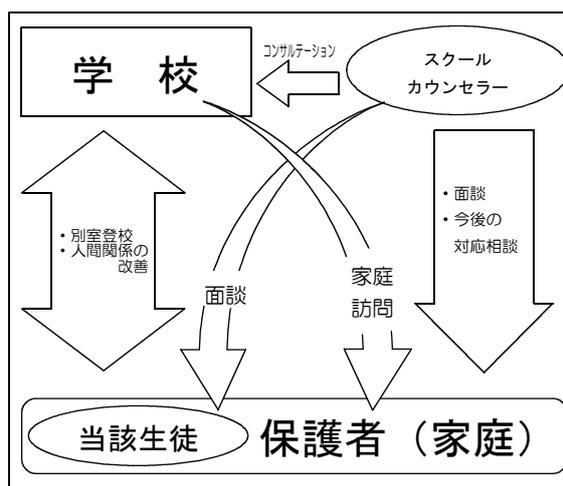
[学校とスクールカウンセラーの連携]

学校は、スクールカウンセラーからのコンサルテーションを受け、家庭訪問を継続的に行い、当該生徒の生活習慣の改善について保護者に協力を依頼した。

11月～1月

[学年団への支援]

学校は、家庭での様子について把握するとともに、スクールカウンセラーからの助言によるアセスメントの結果から、当該生徒が抱えている学級内での人間関係からくる心的な緊張感が不登校の原因と特定し、学級の緊張感を解放する方法を検討した。



学級への復帰を目指して、学級活動、強歩遠足、美術、保健体育などへの参加を試みるとともに、教育相談の時期と合わせて、6人程度のグループで構成的グループエンカウンターを実施し、スクールカウンセラーの学年全体への支援を拡大した。

不登校の問題を速やかに解消するためのポイント

- ・学級担任が一人で抱え込まないよう、学校、家庭、スクールカウンセラーの役割を明確にし、保護者とスクールカウンセラーとが情報を共有しながら、当該生徒への対応の進行管理を行う。
- ・当該生徒の状況や不登校となった要因・背景等を的確に把握し、当該生徒や保護者が必要とする支援を行う。